

## 2024年度 事業報告

特定非営利法人相模原ボランティア協会

### 《概要》

2024年度は、新型コロナに関する制約が無い年度となり、従来協会が取り組んでいる事業・イベントについて新型コロナ感染前の状況で取り組むことが出来ました。

ただ理事会は昨年度1名辞任したため7名体制で開始しましたが、理事1名が昨年度新型コロナに感染した後遺症で理事会への出席が難しい状況となり、残りの6名で運営する1年となりました。

事業について、「ハンディキャブ事業」は運行調整を担っていた事務局メンバーが逝去の際のご遺志として協会に多額のご寄付を頂戴し、このご寄付より協会車両の入れ替えを実施致しました。「傾聴事業」は地域包括支援センターを中心に幅広くPRを実施しました。「講座事業」は秋講座として「住みやすい街づくりのためのボランティア養成講座」、春講座として「認知症を知り、当事者と考える住みよいまちづくり」をテーマに認知症について幅広い学習をする講座を開催しました。「広報委員会」は、ぼらんていあ通信の発行、見やすいホームページなど精力的に活動し、ぼらんていあ通信の発送にはさがみはら若者サポートステーションの協力を得ています。その他「映像企画実行委員会」は市内で活動している団体にスポットを当てて活動を紹介する動画の作成を行いました。また、近年の課題である事務局の強化や財源問題は難しい問題ではありますが、事務局員や切手グループのご努力で大過なく業務を遂行および多額の寄付を頂く結果となりました。

「交流事業」では10月の「ほかほかふれあいフェスタ2024」は「健康フェスタ」と共同開催し、11月の「障害者週間キャンペーン」も無事開催できました。4月には「市民さくらまつり」が開催されパレード・けやき会館でのバザーに参加しました。2023年度から実施を6月に変更した「交流ボウリング大会」は前年度に引き続き6月に実施し、新たに児童養護施設に居る子供を対象にしたボウリング大会を8月に実施しました。

また、2023年度後半に立ち上げた理事・理事経験者による「協会の在り方検討会議」は今年度も引き続き協会の現状に対する意見交換を中心に会議を実施致しました。

以上のように事業を進めてまいりましたが、これは会員の皆様のご協力なしにはできなかったことです。ここに改めて会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

### 《特定非営利活動にかかわる事業報告》

#### 1. ボランティア活動の総括

ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していくことを目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いも実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。ボランティア養成講座は認知症の方も安心して住める住みよいまちづくりを目指す講座を開催しました。

#### 《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
H C 事業活動	1,022 名	713 名		運転ボランティア
交流事業				
・市民若葉まつり	一名	56 名	一名	
・ほかほかふれあいフェスタ	1,500 名	15 名	359 名	

(障害者週間キャンペーン)	1,000名	5名	85名	
・交流ボウリング大会	41名	17名	6名	
・こどもボウリング大会	53名	10名	8名	
傾聴ボランティア活動	223回	469名		対象者28名、活動者33名
ボランティア養成講座	99名	40名	—	
広報活動	—	143名	84名	月刊、ホームページ、SNS
事務局	—	783名	庶務411人・HC調整業務372人(月～土)	

## 2. 高齢者、障がい者への援助活動

### (1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の車いす対応車両と13台のセダン型車（会員の自家用車）を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ713回に及ぶ運行を行いました。2024度は協会車両の11号車車いす対応車1台について、運行調整を担っていた事務局メンバーが逝去の際のご遺志として協会に多額のご寄付を頂戴し、このご寄付により車両の入れ替えを実施致しました。その他小中学校の「みんないいひと体験講座」にも参加をしていますが2024年度は依頼がありませんでした。

《2024年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	713件 (276)	1,022名 (372)	713名 (276)	0名 ( 0)
学校協力事業	体験学習など	0件			

#### [ハンディキャブ新規利用者訪問]

事務局の活動として行う新規利用者訪問はHC運行事業の基本となるもので、訪問時に身体状況の把握、利用の必要性、利用の目的などを把握して、利用会員入会申込を受付けます。

2023年度は運転手不足、利用希望が特定の日に重なるなど運行調整が難しくなり新規利用者受け入れを中止とし、課題が解決しないまま年度末まで継続する事となりました。

この課題は2024年度も継続しておりますが、利用希望の方が多いため、4月より前年度保留としていた希望者の意向を確認することから始め、利用者受け入れを再開しました。7月より課題が改善しないため再度受入中止としました。

2025年3月1日現在の利用会員総数は53名となっています。

・新規利用者訪問実施状況

※2024年度分は2023年度の保留分

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
申 込	12	25	33	2	16
訪 問	5	5	23	2	16
訪問者延人数	5	10	44	4	32
入 会	5	5	17	3	15

### (2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、ぼらんていあ通信でボランティア団体を紹介する記事を掲載しました。

市民若葉まつり、ボウリング大会、ほかほかふれあいフェスタについて新型コロナ感染前に近い形で開

催すことができました。

(イ) 市民若葉まつり

パレードとけやき会館での福祉バザーに参加しました。

(ロ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2024」は、10月12日に開催し、協会からもブース出店を行いました。

11月30日には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのイベントを開催しました。

(ハ) 障がい者とのボウリング大会

2023年度「交流ボウリング大会」と名称を変更して6月に実施した障がい者とのボウリング大会を、2024年度は6月29日に開催しました。

(ニ) レクリエーションなど経験機会が少ない子供たち対象のボウリング大会

2024年度初めての試みとして、児童養護施設の子供たちとのボウリング大会を8月6日に実施しました。

### (3) 傾聴活動

当協会は、2014年度から市内ではあまり行われていなかった居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。当初企画した原則に従い、外出が少なく、人と話す機会も極度に少なく孤立し、孤独になりがちな方を対象とし、原則月1回1時間程度、2人で訪問しお話を聴くということを行っています。傾聴利用の問い合わせは各地域の包括支援センター、市社協ボランティアセンターや居宅介護事業所のケアマネージャーからのものが主ですが、時に利用者様のご家族が私たちを探し出して直接連絡をいただくこともあります。

2023年度には傾聴利用のためのPRチラシを制作し、各所に配布させていただきました。その効果からか、2024年度は、223回の傾聴活動を計画し、実利用者は28名と増加傾向にありました。直近5年間の傾聴活動の推移は次の通りです。

《直近5年間の傾聴活動の推移》

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
活動件数	127	206	181	191	223
実利用者数	19	24	21	24	28
実活動者数	26	28	30	26	33
延べ活動者数	266	420	370	391	469
直前中止件数	24	26	25	33	30

### (4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

NPO法人文化学習協同ネットワークが運営している「さがみはら若者サポートステーション」に対する支援・協力の一環として同組織を利用している若者が来所し、当協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務（発行物の四つ折り、封入、切手貼り等）をぼら通メンバーなどの会員と一緒にしています。作業を通して気軽に会話を交わすことで、職場での対人関係の育成訓練に寄与することを目的としています。2024年度は延べ人数84名の参加がありました。

なお、「ほかほかふれあいフェスタ2024」でも、たくさんの方々にご参加いただきました。10月12日開催の同フェスタのポスター制作、また当日はボランティアとして13名の方々に受付、写真撮影、

ブースなどのお手伝いをさせていただきました。

11月30日に相模大野北口で開催された「障害者週間キャンペーン」でも7名の方に写真撮影とチラシ配布などのお手伝いをいただきました。

また今年度からは、新たに映像企画実行委員会と協働で市内のボランティア関連団体の紹介動画を作成しています。

注) さがみはら若者サポートステーションとは：

通称「さがみはらサポステ」と言い働くことを中心に自立を目指す若者の“新しい自分づくり”と“しごと探し”を応援している組織

### (5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止のための援助活動を相模原災害ボランティアネットワーク(SSVN)と協働実施しています。

2024年度は3件の相談があり2件は済み、1件は対応中となっています。

この活動は市危機管理課が作成している自治会向けのチラシにボランティア協会の活動として紹介されており、1月には南橋本自治会の依頼により防災イベントのコーナーで家具転倒防止の相談を担当しました。

また、SSVN主催の災害ボランティア入門講座(5月実施)・災害ボランティアコーディネーター養成講座(10月実施)で当該援助活動の紹介をおこなったほか、スキルアップ講座(12月実施)では、災害ボランティア活動に活かせる傾聴の視点をレクチャーいたしました。

### (6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会(まち協)からの要請による「住まい探しサポーター」として当協会の正会員を派遣しています。

2024年度、相談会は6回開催され、延べ12名を派遣しました。

なお、2020年度に設立された相模原市居住支援協議会に当協会も役員として参加しています。

## 3. ボランティア養成に関する活動

今年度は、以下のタイトルで講座を開催しました。

### <住みやすい街づくりのためのボランティア養成講座>

～認知症にかかっても地域で暮らし続けていくために～

誰でもがかかる可能性のある認知症。その症状が進まないようにするために心掛けること、認知症であっても地域で暮らし続けるためには、周りでどのような接し方やサポートをすればよいのか？ これから誰もが出会う、認知症とともに歩むための大切なことを学ぶ講座を開催しました。

日時：2024年11月19日(火)・30日(土)、午後2時～4時(全2回)

会場：あじさい会館6階 第1・2展示室

内容：

#### ◆第1日

講師：高島浩子氏(回想法プランニング代表)

主な内容：「回想法を学ぶ」・・・「今」を「覚えられない」認知症の方でも昔の記憶は保持している。そこに焦点を当てた回想法は、脳を活性化させ生きる活力を引き出す、薬いらずの心理療法と言われており、理解を深めました。(演習含む)

## ◆第2日

講師：横山地域包括支援センターの皆様

主な内容：地域包括支援センターの役割と認知症予防・認知症の方への接し方を学ぶ

家族の言動に「なんだか変？」と感じたら、まず、一番身近な地域の包括支援センターに相談しましょう。一人一人に合った一番良い方法の助言や認知症の方への接し方を学びました。

資料代：全2回で1,000円

対象：相模原市内在住・在勤・在学の方

参加者数：2日間で協会会員参加者延べ32名、一般38名

また、春には認知症を深く理解するための講座を実施しました。

### <認知症をもっと知る講座>

認知症を知り、当事者と考える住みよいまちづくり

認知症に関わっておられる専門家に認知症による症状の出方、進行の状況など、奥深いことについて話していただきました。さらに、認知症当事者の方にも語っていただき、症状への理解、周囲にいる人のよりよい対処・支援のあり方を考えました。

日時：2025年3月27日（木）午前10時～12時

会場：あじさい会館6階 第1・2展示室

講師：糠信千代子氏

相模原市チームオレンジサポートセンター、コーディネーター（介護福祉士・介護支援専門員）、  
認定NPO法人Link・マネジメント  
認知症当事者の方

受講料：無料

対象：相模原市内在住・在勤・在学の方

参加者数：61名、スタッフ 8名

## 4. 情報発信に係わる事業

協会の活動を皆さまにお伝えするために、広報誌「ぼらんていあ通信」を毎月発行しています。また、ホームページ、Facebook、InstagramなどSNSでの発信にも力を入れていて幅広い方々に情報をお伝えしています。

### (1) ぼらんていあ通信

「ぼらんていあ通信」は1981年以来、毎月かさかさ発行していて、2025年3月で通巻520号となりました。協会や会員の活動報告、クイズやイラストなどに加え、市内で活動しているボランティアグループなどを取材し、協会や会員にとってもステップアップにつながる情報を提供させていただいています。会員を始め、市内の学校や公民館、福祉施設などの公共機関、またボランティア団体やメディアなどに配布していて、封入作業などは、さがみはら若者サポートステーションの皆さまにお手伝いいただいています。

なお、今までも一部の会員には郵送ではなくメールでの配信をしていましたが、2024年度後半からは郵送料の値上がりなどもあり、メール配信希望者を拡大しています。

### (2) ネットワークを利用した発信

協会のホームページは、協会会員がスキルアップを重ね、2021年からは会員の手でホームページを運営しています。イベントのご案内や報告などを、会員を始め多くの皆さまにお届けしています。また、

2021年12月には相模原市SDGsパートナーに参加しました。ホームページでは、SDGsに対する協会の取り組みなども詳しくお伝えしています。

相模原市民が自由に利用できるポータルサイト“さがポ”にも、協会のホームページを開設して、情報発信に努めています。

Facebookは、近年SNSでの情報発信の需要に応じ、2021年9月に開設しました。情報誌「ぼらんていあ通信」や、イベント情報、ボランティア募集など協会の活動を広く伝えられるようタイムリーな情報発信を行っています。

2023年2月にはInstagramも開設し、若者の読者を広げるべく情報活動に努めています。FacebookもInstagramもホームページにリンクを貼っていますのでご覧ください。

### (3) 動画作品制作の活動

協会活動やボランティア仲間の紹介、市内の活動団体の紹介動画などを、市社会福祉協議会や関係する団体との協働で制作し、広く市民の皆様にお知らせすべくオリジナルの動画制作活動を行っています。

## 5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健福祉審議会、地域福祉推進協議会、福祉のまちづくり推進協議会、防災市民会議、居住支援協議会、また市社会福祉協議会のボランティア・市民活動団体部会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSVN）の運営委員として、SSVNの運営に係わっています。

## 6. その他の事業

### (1) 法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、組織に必要な配置が十分できておらず、より一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。事務局運営体制の整備、役割分担については、依然として継続課題となっています。

### (2) 活動財源確保のための活動

会員の皆様には認定NPO法人制度を利用した寄付促進の説明をぼらんていあ通信に掲載しました。

また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」へ参加している他、市民桜まつりやほかほかふれあいフェスタでのバザーや模擬店等での財源確保を図っています。

### (3) 新規正会員勧誘の活動

ボランティア講座の際には協会の説明や申込み窓口を開設し、新規会員の獲得推進を行いました。

当協会のホームページ、市民活動サポートセンターの紹介資料にも会員募集を掲載しています。